

次世代ネットワーク基盤を支える コンパクトギガビットマルチレイヤスイッチ「AX3600Sシリーズ」

NGN(Next Generation Network)サービスの商用開始に伴い、NGN時代の新しいサービスや、より快適で安心できるシステムの実現に向けて、アラクスネットワークス株式会社では、企業・公共ネットワークや通信事業者を中心に実績のあるコンパクトギガビットマルチレイヤスイッチ「AX3600Sシリーズ」において、新モデル「AX3640S」の提供とともに、セキュリティ機能の強化を図っている。

製品の特徴

(1) 大規模システム対応AX3640Sモデル

AX3640Sモデルは 1Uサイズ(1U=44.45 mm)の10ギガビットイーサネット¹⁾対応ボックス型スイッチであり、従来のAX3630Sモデルに加え、AX3600Sシリーズのハイスペックモデルとして7機種がある。ホットスワップと冗長可能な内蔵電源モデルを6機種そろえ、ミッションクリティカルな用途での利用が可能である。

大規模システムに対応するため、端末の物理アドレスであるMAC(Media Access Control)アドレス単位にVLAN(Virtual Local Area Network)のグループ分けを行うMAC VLAN機能のVLAN最大収容数と、識別可能なMACアドレスの最大収容数を拡張している。

不正トラフィックの排除などを行うQoS(Quality of Service)では、アウトバンドフィルタをサポートしている。出力ポート側で各拠点に流入するトラフィックの一括フィルタリングが可能であり、セキュリティポリシーを効率よく確実に適用可能である。

(2) アラクサラのトリプル認証

「トリプル認証」はアラクスが提唱しているネット

ワーク認証機能である。Web画面上でユーザーID・パスワード入力を利用するWeb認証、端末のMACアドレスを利用するMAC認証、認証の標準規格であるIEEE802.1x認証の3方式を装置1台で同時に運用可能である。

端末ごとに異なる方式で認証可能なため、1ポート上に認証方式の異なる端末が接続している場合や、オフィス内などで一群の机などの単位に設置される集線用ハブ(通称「島ハブ」)を経由して端末が接続している場合においても、端末ごとにそれぞれの方式で認証可能であり、既存システムへのネットワーク認証の導入を容易にする。

(3) 検疫システムとの連携

トリプル認証により、認証方式の異なる各種検疫システムと連携して検疫ネットワークが可能である。検疫ネットワークでは検疫サーバと連携してPCの状態をチェックし、問題のないPCだけをネットワークに接続許可する。例えば、Microsoft²⁾社のWindows Server²⁾2008、Windows Vista²⁾との連携により、同社が提唱するネットワークアクセス保護NAP(Network Access Protection)が可能である。また、日立製作所の統合システム運用管理「JP1」との連携による検疫システムが可能である。

1) イーサネットは、富士ゼロックス株式会社の登録商標である。

2) Microsoft, Windows, Windows Server, Windows Vistaは、米国 Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標である。

【お問い合わせ】

アラクスネットワークス株式会社

〒212-0058 神奈川県川崎市幸区鹿島田890番地 新川崎三井ビル

<http://www.alaxala.com/jp/products/index.html>

「AX3600Sシリーズ」のシステム適用例

注：略語説明 IP(Internet Protocol), VPN(Virtual Private Network), PoE(Power over Ethernet), AP(Access Point)

